

三小だより 7月号

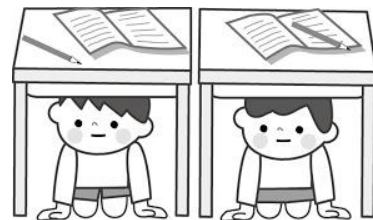
新潟・山形地震から思うこと

校長 大鳥 清裕

6月18日夜、新潟・山形方面で大きな地震が発生しました。20人以上の人々がけがをし、震度6強を記録した新潟県村上市では崖崩れが発生。各地で民家の屋根や壁が損傷したということです。幸い亡くなった方はおられませんでしたが、被害に遭われた方々が、通常通りの生活に戻るには今しばらく時間がかかるようです。

思い返せばちょうど1年前、大阪北部地震が発生したのも6月18日でした。高槻市の小学生がプールブロック塀の下敷きになって、亡くなったこともまだ記憶に新しいところです。私も、地震の後、前任校で校区内のブロック塀を点検して回ったことを覚えています。実際回ってみますと、危険と思われる箇所が数か所ありました。しかし、個人のお宅の塀だったこともあり、無理に改修をお願いすることもできず、児童に通行の際には注意するよう呼びかけることしかできませんでした。

1995年の阪神・淡路大震災以降、2004年の新潟県中越地震、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2018年の北海道胆振東部地震と震度7以上の地震が5回起こっています。しかも発生する間隔がだんだん短くなっているのが気になるところです。南海トラフ地震がいつ起こるのかということが心配されますが、今後30年以内に発生する確率が70～80%と予想されるぐらいで、それ以上時期を絞ることは現在の技術では難しいようです。



ピンポイントでの予測が困難である以上、我々にできることは日頃からできる備えをしっかりとっておくことと、いざというときにどう動くかということイメージトレーニングしておくことしかありません。過去の尊い犠牲から学んだ多くの知恵が我々にはあるはずですが、その知恵をしっかりと活かして、生じる被害を少しでも小さくしていくことが、過去の震災で亡くなられた方の死を無駄にしないことにもなるのだと思います。実際、今回の新潟・山形での地震でも、発生が午後10時22分と遅い時間であったにもかかわらず、多くの方が避難行動をとったということです。震度6弱の山形県鶴岡市小岩川では、高台の寺に約60人の住民がかけ込み、新潟でも着の身着のまま避難所に移った人がいたそうです。役所などからの指示や勧告を待たず、自主的に判断した人も少なくなかったようです。これらの方々の判断・行動に過去の震災から学んだ多くの教訓が生かされていたことは間違いないところだと思います。

さて、本校でも年に1度、地震を想定した避難訓練を実施しています。しかし、それだけでいざという時に十分な対応を取ることは難しいでしょう。やはり、様々な機会を見つけて、防災教育を積み重ねていくとともに、ハード面・ソフト面の対策を点検・見直ししておく必要があると思います。生じる地震を防ぐことは我々にはできません。しかし、そこから生じる被害を最小限にとどめることは、我々の努力次第です。できる努力を確実に取り組んでいきたいと思っています。